

けなり。すべて、色は其飽和度（飽和とは其色がいくら濃くしてもそれよりも色が出ないといふ點、即ち黄ならそれ以上黄色にならぬといふパイの力）を以て標準とすべきもので、其飽和度に達する迄幾千幾百の階級あり、普通人は其階級を無視して、單に鼠を指しても白なりといひ、時には黒なりといふなり**四** 前にKS生への答あり、何れしてもあまり利益なし**五** 編者は見た事がないからお答が出来ぬ**六** 博文館發行世界美術史あれど譯文晦澁なり、和文にては他になし**七** 同人なり**■**端書表に筆で「郵便ハカキ」と書いて使用し得るや（一讀者）◎規則では印刷することになつてゐるが默許されてゐる様なり

讀者の領分

■寫生をやつてゐるので見てゐると、一人二人と集まつて見物人は黒山になつた、處が先生何と思つたか、十二號の筆を出し繪具タラケのパレットを掻き混ぜ、ウルサイ！といふより早く大手にそ

れを振廻した、着物でも汚されてはと見物人は大恐慌我れ勝ちに逃出したが、先生大切の畫面には大小の班點ボチ／＼とお氣の毒千萬（畫かき覗き）**■**現代歐米諸國の大家の姓名を誌上に紹介されまじきや（一讀者）◎サロンの受賞者やローヤルアカデミーの會員は何れも大家といふを得べく、頗る多數にて御紹介致しがたし、畫家人名辭書でも御覽になつた方がよい**■**公設展覽會に水彩畫で二等賞を取つたものがない、僕は一商店の小僧だが、日本の畫界を將來は水彩畫に一變せしめやうと希望するものなり、本年は諸先生の一層の奮發を望む（山本嘉二郎）◎第二回展覽會に二等賞のうち吉田博氏の水彩畫一點あり**■**原書の美術書を半解な語學の力でよむよりも、氣永く『みづゑ』の講話欄で紹介されるのを待つたらドーだ、字書と首引する暇に宜しく寫生すべし。序に誌上に追々掲載せられんことを編者に御願ひ申す（兵庫MY生）**■**僕は今度東京芝源助町二、小松熊吉様方へ移轉しました、不相變御交際を願ひます（塚

崎繁夫）**■**『みづゑ』三月號の「研究上の自信」及び「初學者通有の缺點」、共に黨派などといふことの少しも見えず平氣に記されたのはさすがにとうなづかれまじた、繪の中では「雪の川口村」は位置が一番好きですが左下方の水がどうにかならなかつたでせうか、「海岸」の松の色は目新しく、農家の屋根の色も共に油繪の様な色が氣に入りましたが、是れに比べて他の色が弱過ぎるやうに思はれますがどうでせうか、然し一二號の口繪と比べて、餘程活々しく氣持ちの良い繪でした○何時か紙上で、我國の水彩畫派に付き述べられたし○岩見飯田君發起の廻覽畫帖の件賛成、一日も早く實行せられたし○審美書院發行の「第二回公設展覽會圖録洋畫の部」譲り受けたし（神戸布引久形橋東詰津川清平）**■**『みづゑ』五十九を見る、口繪の三色版其他皆まづい、問答讀者の領分共にくだらぬ、一寸考へれば分るやうな質問が澤山なのに驚き、又一々これに答を與へられる編者の忍耐に感ずる○額縁及マツトの繪の調和につき

講話を載せられたし、展覽會を見てその無茶苦茶なのに驚くからである(三平山人)■石見飯田君發起の廻覽貼賛成○「ホスター臨畫帖」四十三册新しきものあり交換希望、「女性と趣味」吉田氏「寫生旅行」(上製)、「日本名勝寫生紀行」、畫架スケツチ箱、乞御照會若くは安價に譲る、肉筆交換を望む、其他美術に關する雜誌古くともよろしく候(三重縣棕本局區内駒田彦太郎)○文意不明■新に購入せし二號畫架(元價三圓二十錢)不用につき安價に譲る乞御照會(下野日光星野長一)■諸君のうち、又は友人にして、學資の幾分を得んため自己の作品を廉價でもよいかから賣りたいと思ふ士は、二三の商店へお世話して上げてよい、但し吃度賣れるか否やお請合は出來ぬ、苦學の方のためにもとお相談申上る(小樽區イナホ町畑五六山内生)■三宅氏「彩畫帖」第一輯(損所なし袋なし六枚一組)、織田東禹氏「彩畫臨本」(六枚揃損所なし)不用につき譲る乞御照會(廣島縣比婆郡本村上谷元山秋甫)○油繪スケツチ箱、繪具

三十色、パレット、ニツケル油壺三個、筆六本、パレットナイフ、未使用リンシードオイル、テレピン油各一個、スケツチ板二枚を大安價送料共四圓に、三脚一個送料共四十錢に、ミレースケツチ箱送料共六十錢に譲りたし○傑作肉筆繪葉書の交換を求む(相州鎌倉長谷堀谷一郎)■「みづゑ」五十三より五十九迄一册十五錢にて譲る○參號畫架安價に譲り受けたし(長野縣下高井郡往郷村三五四、山田直一郎)■「みづゑ」六十號入用(春鳥會)■三月の「みづゑ」で私が一番嬉しく讀んだのは「初學通有の缺點」です、假令他人の畫れたのでもあれ程親切に教へて頂くと目が醒める様に感じます、況して自分の描いたのに於てをやです、茲に深く先生の御親切を謝すると同時に、今後も時折誌上にて詳しく教へて下さる様に御願致します、尤もあれ程澤山な事は要りません、せめて三頁位宛毎月御願致します○會友徳永正君の發起にて「つゝ、じ畫集」といふ回覽畫帖が發行されて居ります、二月發行の第三輯は「ビール瓶とコツブ」

いふ題でしたが出品者十名許りの内に非常に面白いのがありました、赤い瓶もあれば藍い瓶もある宙に飛んだのもあれば坂を轉がつてるものもある、構圖色彩共にそれはく面白いの許りです、そして各自の露骨なる評が振つたものです「高い山から谷底見れば瓶やコツブが轉び合ふ」なんといふ奇抜なのがあります、三月の題は「書物とインキ壺」だそーです、御希望の方は發起者に申込み下さい、之れは面白い事ですが、各地方の出品をひとまとめにして廻せば大變暇どるものですが、各地方で可成多く集めて一冊となし、他の地方の分と交換して見る様にしたら都合よく行くでせう○地方で發行する畫集御存知の方は本欄で知らして下さい(山口猛)■不自由な田舎の同好者と云つたのが御氣に召さなかつたのか又は自重されたのか御賛成の方が大いに少數だ三河の石川君福島の遠藤君愛知の柴田君神戸の久住君(君へのハガキ返れり)御厚情有難う。安房の白井氏如何致しましょうか(柴朗)